

横浜みなとみらいホールでのリサイタルが2年ぶりに実現 日本屈指のピアニストが、3人の大作曲家の晩年の境地に迫る

チャイコフスキー国際コンクール、ショパン国際ピアノコンクールの二大コンクールに入賞、レコード・アカデミー賞、紫綬褒章等名誉ある賞を数々受賞(受章)、およそ半世紀の歴史を持つ東京交響楽団ニューイヤー・コンサートに2018年からソリストとして抜擢される等、これまでも数々の輝かしい歴史を築き上げた小山実稚恵。日本最高峰のピアニストによる待望のソロ・リサイタルが、2年ぶりに横浜みなとみらいホールで開催されます!

磨き抜かれた技術にキラキラと輝く至高の音色だけでなく、豊かな情感、そして時に凄みすら感じさせる迫力は何度聞いても想像以上。それでいて、聴き終わった後には不思議とあたたかな、満たされた気持ちにさせてくれる…これこそが、小山実稚恵の世界!今回用意された3人の大作曲家による晩年作品の深い味わいも、その包容力溢れる音楽でじっくり聴かせてくれることでしょう。

小山実稚恵のデビュー35周年でもある2020年。節目の年を迎える彼女のリサイタル、じっくりご堪能ください。



Michie Koyama

©Tetsuro Kameyama

小山実稚恵(ピアノ) Michie Koyama, piano

人気・実力ともに日本を代表するピアニスト。チャイコフスキー国際コンクール、ショパン国際ピアノコンクールの二大コンクールに入賞以来、今日に至るまで、コンチェルト、リサイタル、室内楽と、常に第一線で活躍し続けている。

2006年~17年までの壮大なシリーズ『12年間・24回リサイタルシリーズ』は、その演奏と企画性に於いて高い評価を受けた。2019年春からは、いよいよ新シリーズ『ベートーヴェン、そして…』が、全国6都市でスタート。

これまでに国内の主要オーケストラはもとより、モスクワ放送響(現・チャイコフスキー・シンフォニー・オーケストラ)、ベルリン響、ロイヤル・フィル、BBC響、イギリス室内管、アカデミー室内管、ロッテルダム・フィル、シンフォニア・ヴァルソヴィア、ワルシャワ・フィル、モントリオール響、ボルティモア響などと共演しており、フェドセーエフ、テミルカーノフ、マリナー、小澤征爾といった国際的指揮者との共演も数多い。協奏曲のレパートリーは60曲を超える。また、ショパン、チャイコフスキー、ロン＝ティボー、ミュンヘンなどの国際コンクールでは審査員を務める。

東日本大震災以降、被災地の学校や公共施設等で演奏を行い、仙台

では被災地活動の一環として自ら企画立案し、ゼネラル・プロデューサーを務めるプロジェクト『こどもの夢ひろば "ボレロ"』を毎年開催している。CDは、ソニー・ミュージックジャパンインターナショナルと専属契約を結ぶ。30枚目となる『バッハ:ゴルトベルク変奏曲』は、「レコード芸術」の特選盤に選ばれた。2020年春には、生誕250年に向けた初のベートーヴェン録音『ハンマークラヴィア・ソナタ 他』のリリースが予定されている。また、著書としては『点と魂と—スイートスポットを探して』がKADOKAWAより出版されており、2019年には平野昭氏との共著『ベートーヴェンとピアノ「傑作の森」への道のり』が、音楽之友社から出版された。

これまで、2005年度 文化庁芸術祭音楽部門大賞、2013年度 東燃ゼネラル音楽賞洋楽部門本賞ならびにレコード・アカデミー賞(器楽曲部門『シャコンヌ』)、2015年度文化庁芸術祭音楽部門優秀賞ならびに第28回ミュージック・ペンクラブ音楽賞、2016年度芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。2018年度大阪市市民表彰を受ける。2017年度には、紫綬褒章を受章している。

東京藝術大学、同大学院修了。吉田見知子、田村宏両氏に師事。